スリムネット
１０周年記念フォーラム

もっと進めようごみ減量

― 視点を変えるとごみも資源に ―

報　告　書

スリムシティ～さっぽろ

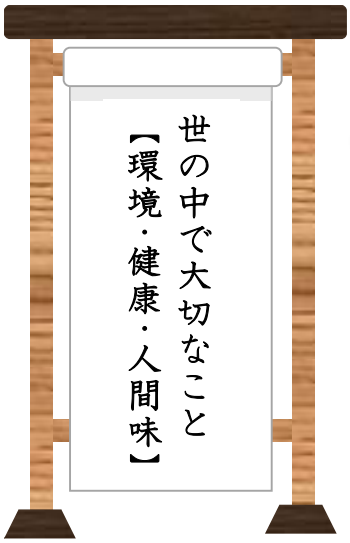
目　次

■挨　拶
さっぽろスリムネット　副委員長　富田　秀則 ―― ２

■　１.ごみ減量紙芝居表彰式 ―― ３

■　２.スリムネット１０周年活動紹介 ―― ６

■　３.特別講演会＆落語 ―― ９
『世の中で大切なこと【環境・健康・人間味】』
講師　桂　文喬さん　落語家



３Ｒ推進マイスター（環境省より委託）・上方落語協会理事・吉本興業所属。大学卒業後、桂文枝に入門。京都国際会議場にて環境問題を語る。入門 10 年目を向かえたのを機に毎年独演会を開く。
いまや、多くのファンでいつも満員！
毎年、全国展開で 200 回以上の講演依頼がある。

■　展示コーナーのようす ―― １６

■　アンケート報告 ―― １７

【　開　催　概　要　】

●開催日・会場

2016 年３月５日（金）　エルプラザホール（北区北８条西３丁目）

●主　　催／札幌市ごみ減量実践活動ネットワーク

●運　　営／特定非営利活動法人　環境り・ふれんず

●展示協力／北海道容器包装の簡素化を進める連絡会

●参加者数／２１２名

スリムネットフォーラムの開催にあたり

さっぽろスリムネット
副委員長　富田　秀則

　只今御紹介にあずかりました、スリムネット副委員長の富田でございます。

慎んでご挨拶申しあげます。

さっぽろスリムネットは、おかげさまで１０周年を迎える事となりました。

これもひとえに、皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

さっぽろスリムネットは、正式名称をごみ減量実践活動ネットワークと言い、市民・事業者・札幌市が協働で、ごみの発生抑制・再利用、リサイクルなどの具体的な活動を行っていくための団体として平成１７年３月に設立しました。

この１０年の間に札幌市の廃棄ごみ量は、約４０％も削減されました。

これは平成２１年７月のごみ有料化以降、より一層の資源物の分別が進んだことはもちろんですが、生ごみ堆肥化や廃食油と古紙の拠点回収など、当ネットワークの活動を通じて市民一人一人がごみ減量に取り組んでいただいた結果であると思います。

本日は、スリムネット１０周年記念フォーラムを開催し、「もっと進めようごみ減量～視点を変えるとごみも資源に～」をテーマに、皆さんと一緒に１０年間の活動を振り返るとともに、これからのごみ減量について考えていきたいと思います。

また、本日は、落語家で環境省３R 推進マイスターでもある『桂文喬』さんを講師にお迎えして、御講演及び落語を御披露していただくこととなっておりますので、どうかお時間の許す限りお楽しみいただきたいと思います。

このフォーラムが、皆さんの今後のごみ減量活動の一助となり、更なる実践の輪が広がることを期待して私からの御挨拶とさせていただきます。

ごみ減量紙芝居　表彰式

さっぽろスリムネットでは、「もったいない」が楽しくわかる、紙芝居を募集し、25 作品もの応募がありました。 ご応募いただいたみなさま、誠にありがとうございました。厳格な審査の結果、以下の５作品が入賞いたしました。

＊最優秀賞

『ふえる君の家のごみのスリム化大作戦』
手稲西小学校４年　土畠　もえみさん

＊優秀賞

『「マイバッグ」って何だろう？』
幌北小学校４年　関　陽菜さん

『リサイクルで生まれた幸せ！未来からエコッち参上！』
豊園小学校５年　髙橋七桜花さん

＊努力賞

『もったいない！捨てちゃダメだよ。たべれるよ。』
日新小学校５年　曲　藍里さん

＊奨励賞

『もう食べ物は残さない 』
東光小学校６年　髙橋　　葵 さん
髙澤　　麗 さん
本間　鈴音さん

≪ ごみ減量紙芝居 ≫

『ふえる君の家のごみのスリム化大作戦』
手稲西小学校４年　土畠　もえみさん

『ふえる君の家のごみのスリム化大作戦』
　ふえる君の家のごみは増え続けるばかり。そこで、ごみのスリム化に挑戦することにしました。成功するのでしょうか。

「おはようふえる君」
「おはようクリンちゃん」
「クリンちゃんの家のごみはいつも少ないね」
「もしかすると、ふえる君の家では、もったいないものまで捨ててるんじゃない？」

「もったいないもの？そうかなあ、全部ごみだけどなあ」
「使わなくなったものの中には、もう一度使えるものがいっぱいあるのよ。資源を捨ててしまうのはもったいないでしょ」

「さあ、今日からぼくの家もごみを減らすぞ。みんな協力してね」

「お母さんは、生ごみを見直してみるわ。確かに野菜や果物の皮は、もっと利用できそうね。それに、生ごみの 80%は水分なんですって。よく水切りしてから捨てることにするわ」

「ちょっと待って、その生ごみで畑の肥料が作れるそうだよ」
「やりたい、やりたい。なんだか楽しくなってきたぞ」

みんなの家にも、使わないけれども捨てるのはもったいないものがいっぱいあります。喜んでくれる人がきっといるから、探してみてね。

ごみを少なくする努力はみんなでずっと続けていかなければなりません。何も考えないで今ある資源を使ってしまったら、将来の私たちの生活が大変なことになってしまいます。一人一人がものを大切にする習慣を身に着けていきたいですね。

さて、ふえる君の家のごみは減ったのでしょうか。
「おはよう、クリンちゃん」
「おはよう、わあ、すごい。ふえる君の家のごみ、すごくスリムになったね」
「エッヘン、大成功！」

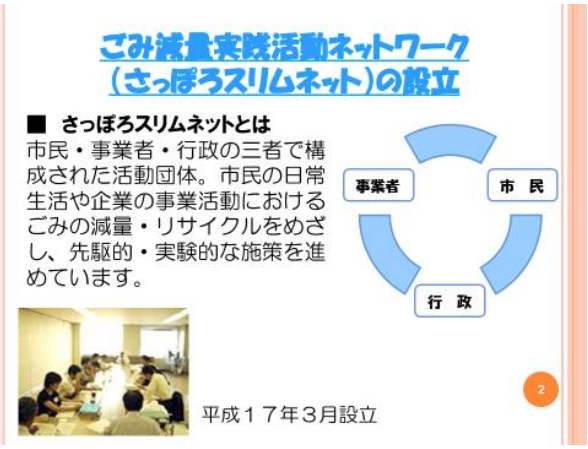
【作品をダウンロードして使用できます】

入賞作品は、札幌市のHPにて掲載され、次のアドレスにてダウンロードできます。
又は、札幌市、ごみ減量紙芝居で検索できます。

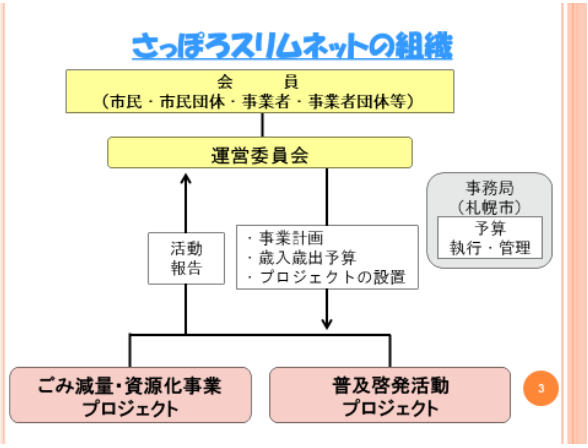
http://www.slim-net.org/p2-fukyu-kamishibaikekka.html

さっぽろスリムネット活動報告

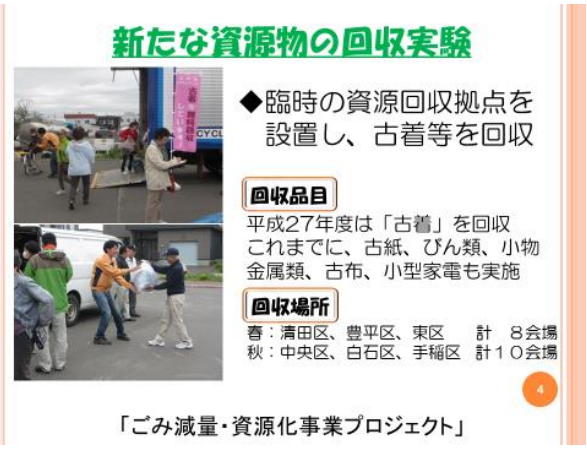
副委員長　石塚　祐江



みなさん、こんにちは。
本日は、このように多くの皆様に、フォーラムにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
私は、さっぽろスリムネット副委員長の石塚と申します。
本フォーラムの主催団体でありますさっぽろスリムネットの概要と、１０年間の活動で実施してきた、ごみ減量に向けた取り組みについて、ご報告させていただきます。



スリムネットの組織は、「運営委員会」と、事業を実施する「プロジェクト」、そして、これらのサポートを行なう「事務局」で構成されています。
現在は、ごみ減量・資源化事業と、普及啓発活動の二つのプロジェクトを設置しております。
ごみ減量・資源化事業プロジェクトでは、「資源物の拠点回収」と「生ごみ減量・堆肥化への支援」といった実験的な事業を行っており、
普及啓発活動プロジェクトでは、「普及啓発活動」により、ごみ減量・リサイクルの情報発信に努めております。



資源物の回収実験としては、これまで古紙、びん類、小物金属類、古布及び小型家電などの臨時回収拠点を設置し資源回収を実施しました。
平成 27 年度は、集団資源回収で出すことができない古着の移動式回収を実施しました。
地区リサイクルセンターが無い区で希望のあった連合町内会を対象に春と秋で計１８会場で実施し、約 21 トンの古着を回収しました。
回収された古着は、業者に売却し、売却益は町内会の活動資金となっています。

生ごみ堆肥化講師派遣は、家庭で堆肥化を始めるための学習会の開催を考える町内会などのために、講師が出向いて生ごみ減量や堆肥化の方法を教えるものです。

この事業は平成１７年度から開始し、平成 27 年度からは札幌市に移管し、継続しています。

受講内容はダンボール箱式、密閉式容器、コンポスターの３つから選ぶことができ、10 名以上でお申し込みが可能です。

廃食油及びダンボールの拠点回収は、スリムネットが札幌市と協働で平成１８年度から、市内の公共施設や民間の商業施設などに回収ボックスを設置して実施しています。

現在の回収拠点数は、廃食油 327 件、ダンボール 56 件となっております。

回収された廃食油は、BDF 燃料などの原料となってリサイクルされています。

ダンボールについても、新たなダンボール箱などの原料にリサイクルされています。

エコボックスとは、地域住民が設置し、地域住民以外の市民も使用できる資源物（古紙類等）の回収を行う物置型の保管庫です。

エコボックス設置事業では、地域住民がエコボックスを設置する際に、その購入金額（上限 20 万円）を助成しており、平成 18 年にスリムネットが主体となって開始し、平成 23 年度からは、札幌市に移管しています。

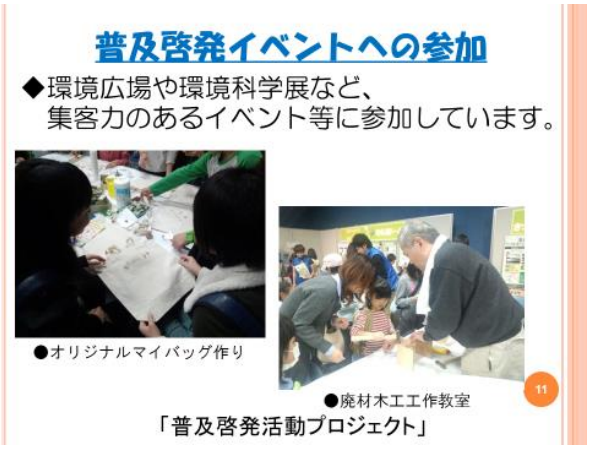
現在、32 か所のエコボックスが設置されており、常設型の資源物の回収拠点として活用されています。

家庭で堆肥化を行っても、庭などの堆肥の活用場所を持たない方のために、「生ごみ堆肥拠点回収事業」も行っています。

こちらの事業では、家庭で取り組んだ生ごみ堆肥を、清掃事務所や地区リサイクルセンターで受入れ、回収した生ごみ堆肥は
協力農家に搬入し、堆肥を使って栽培された野菜を市民に提供しています。

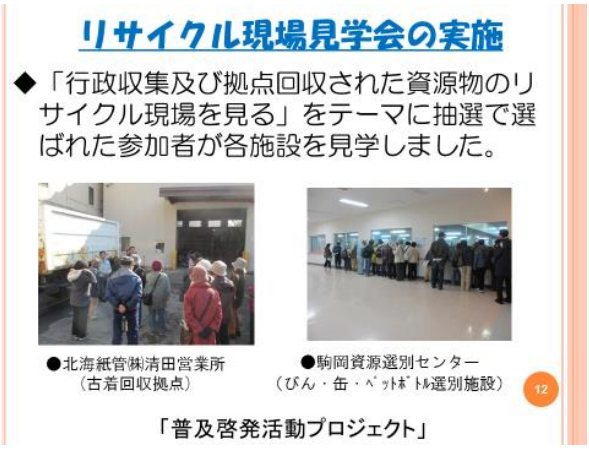
・生ごみ堆肥化器材の購入助成については、平成 18 年度からスリムネットが開始し、平成 23 年度からは、札幌市に移管され、電動生ゴミ処理機購入助成事業と併せて継続中です。
・コンポスターや密閉式容器 1 台当たり 2,000 を上限として、一世帯 2 台までの助成を行っております。
・ご家庭から出る生ごみを堆肥として活用していただくことで、燃やせるごみの約 4 割を占める生ごみの削減に貢献しています。

「環境教育普及啓発事業」では、ゲーム等を通して楽しみながら子どもや保護者等のごみの減量やリサイクルの意識の向上をしております。
こちらは、「買い物ゲーム出張講座」というもので、ごみになるものを買わないことをゲームの中で気づくことができるよう、様々な工夫がなされています。
こちらは「環境かるた」です。平成　年度に、オリジナルのかるたを札幌市立大学、札幌消費者協会、スリムネットの３者により完成させました。こちらを使って、楽しく環境について学ぶことができます。



また、集客力のあるイベント等に参加し、布バックに布用クレヨンを使って自由に絵を書いて自分用のバックを作るオリジナルマイバック作りや、大型ごみの修理の際等に出た廃材を使った木工工作教室などの普及啓発活動を行っています。

例年環境広場等に出展し、多くの来場者にマイバック持参やリユースの大切さを伝えております。



スリムネットでは、市民向けにリサイクル現場見学会を実施、今年度は「古着とビン缶ペットボトルのリサイクル現場を見る」をテーマに北海紙管㈱の古着リサイクル拠点、駒岡資源選別センター、及び八剣山ワイナリーを２５名の方に見学頂き、ごみ減量・リサイクルの意識を高めて頂きました。
この 10 年を振り返り、皆様にスリムネットの活動を紹介するには大変短い時間で、まだまだご紹介したい内容はございます。さっぽろスリムネットでは、さらなるごみ減量、資源化に関わる活動を皆様と一緒に進めて参りたいと思っております。どうぞ、宜しくお願い致します。
ありがとうございました

３.特別講演会＆落語

『世の中で大切なこと【環境・健康・人間味】』

講師　桂　文喬さん　落語家

皆様、ありがとうございます。文喬でございます。大阪からこちらへ移動させていただいて、札幌へ来るのにもったいないからスケジュールを調整しまして、三日前から札幌の街を歩いたり小樽とかそのへんを散策させていただきました。

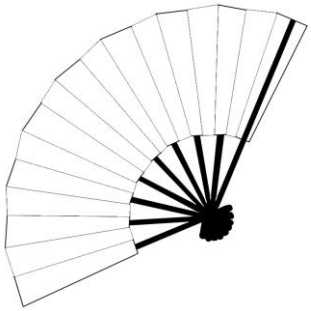
今日はいい天気ですが、3 月 3 日の日はかなり吹雪いておりまして。ごめんなさいね、みなさんの目の前で私の靴の裏を見せるのは失礼なんですが、つるつるの靴で 8 回コケてしまいまして。今、頭がボーッとしております。たんこぶが 10 個ほどできております。こんな靴ありませんわな。でも大阪ではこれしかないんですよね。

札幌、いいですね。雪の雰囲気。みなさんもう飽きて嫌でしょうけど、いいですね。札幌は食べもんが美味しい。今日は札幌へ寄せていただいて環境講演をやらしていただくんですが、その前にちょっとだけ自己紹介させていただきます。

私は、神戸の生まれでございまして、小・中・高と神戸だったんですが、大学は大阪やったもんで大阪へ出て参りまして・・・大学へ入った時に、やはりクラブというかサークルに入ろうかなとウロウロしていると、「落語研究会」という看板がふっと目に入ったんですね。「お、これ面白そうやなあ」と入ったんです。入った日に先輩が「おまえ、今日入った新入生か。ちょうどええわ。あんな、落語の寄席があるから連れてったろ」と言って連れて行ってくれたんですね。生まれて初めて生の落語を聞いて。面白いですね。

大阪から神戸は 25 キロほどしか離れてないんですね。ところが私が生まれた神戸には、落語の寄席が一戸もなかったんですね。だから生の落語を聞いたことがなかった。ところが大阪では毎日いろんなところで落語の寄席をやってるんですね。いいですね。落語をライブで聞くのは。その時、落語ってこんなに面白いもんやったんか、と魅力に取りつかれましてね。一番最後に出る人を私たちの世界でトリというんですね。このトリを取る、一番最後に出る人が、言うたらこの寄席の一番の責任者、偉い人、上手い人、おもろい人がとるわけでございます。ちなみに私が明日大阪でやる寄席では、一応、トリを取らせていただくことになっているわけでございます。（拍手）

・・・あの、芸人にとって何が一番嬉しいかいうたら、笑い声と拍手なんです。「ここ、笑うていただいたら嬉しいな」いうところでゲラゲラと笑っていただくと、ほんと、「笑うてくれた、頑張るぞ」と成長の肥やしになります。また、拍手をパチパチパチ！としていだくと、「あ、拍手してくれた。嬉しいな」とまたまた成長の肥やしになります。あ、それからすみませんけど拍手は小刻みにお願いします。これはダメですよ。・・・パチ・・・パチ・・・パチ・・・これはやめてくださいね。まあ、拍手嬉しいですね。我々芸人というのは、拍手、笑いをいただくことが一番嬉しいですから、拍手をいただくか、ご祝儀をいただくか。やっぱりご祝儀がよろしいですな。ご祝儀を頂くいうのが嬉しいです。拍手よりキャッシュや。大きな花束より小さな札束。す



いませんね。しょうもないこと。
それで私、その時一番最後に出た人の落語聞いて、感動したんです。上手いなと思ってね。名前も知らなかったけど。ところが皆さん、落語やってる横手に、よく名前書いてる紙がよう垂れ下がっております。あれを我々は「めくり」というんですが、それを見ましたら「桂小文枝（こぶし）」言うてました。この人の落語聞いてね、感動したんです。いっぺんにファンになったんです。ほんでこの方が 30 年くらい前に 5 代目桂文枝を襲名したんですね。この人の弟子が二十数人いてね。一番弟子が次を継ぐわけです。亡くなってちょうど 3 月 12 日でまる十一年ですね。このたび、一番弟子が六代目桂文枝を継いだんですね。これはご存じの方はご存じやろうし、ご存じない方はご存じない。うちの兄弟子ですね。桂三枝。三枝、きん枝、文珍がおって私がいるんですね。そういう世界ですね。だからこの 3 人が早よ死んだら私が一番になれる。ところがなかなか死によりまへんのや。（笑）ほんでこの人の落語に感動してね。追っかけしてたんですね。落語会へ行ってる間に知り合いになってね。あるとき、その人が私に「君は学生さんか、社会人か。寄席によう来るけども」と。その時、ぼくは名刺作ってたんですよ。それでぼくはこんなもんですと名刺を差し上げてね。名刺に「大阪府立大学経済学部、落語研究会所属」と書いた名刺を渡したんですね。住所、電話番号が書いてありますさかい、大学 4 年の秋、その人から電話がかかってきたんです。名刺の電話番号見たんでしょう。電話がジリーンジリーンと鳴るかと思ったら、受話器の向こうで「文枝やけどなあ、うちの子どもの家庭教師してくれんかなあ」と言われましてね。芸人さんてどんな家に住んで、どんなものを食べてどんな生活してはるのか興味がありましたんで、二つ返事で「行かしていただきます」と。

さて、家庭教師をしていて冬休みになりました。高校受験の追い込みでございます。朝、8 時くらいから 12 時くらいまで 4 時間みっちり教えて、お昼に帰りがけると師匠が「お、先生、もう勉強が終わってんか。ちょうどよろしいな。私が今出ている演芸に連れて行ってあげましょ。」と。

その当時、一回の興業が 4 時間。どんなことがあるかというと、プログラムで言うと落語があったり漫才があったり奇術があったりまた落語があったり。漫才が多いですよ、吉本ですから。そして最後に吉本新喜劇で締めくくって一回の興業が 4 時間。2 回興業で同じことをするんです。落語とか漫才は持ち時間が 15 分と決まってるんです。うちの師匠の出番がその日、3 時から 3 時 15 分までの 15 分間、4 時間休憩がありまして 2 回目は 7 時から 7 時 15 分までの 15 分間。どうです、15 分落語をやって 4 時間休憩があって、15 分落語をやって、その日の仕事は終わりなんです。実働 30 分。それも力仕事するのと違いますよ。座布団の上にちょこんと座って動くゆうたらそこだけなんです。

さあ、師匠のとこ、御殿みたいな大きな大きなところに住んでらっしゃるんですよ。「へええ！30 分しゃべるだけでこんな大きな家に住めるか～」、というのが私の頭のスミにインプットされました。翌年 3 月、無事に師匠のお子さんが高校受験に合格して。師匠のお宅で高校合格の祝賀会をしようということで。私も一応家庭教師の仕事をやっていた関係上、その祝賀会に招待されまして。ぼくはその一週間後に大学を卒業致しまして、高校の社会科の先生に就職が決まってたんです。言うときますけどね、金もコネも一切使ってませんよ。実力で先生の採用試験に通りまして。それで師匠のところに高校の社会の先生になると言うてなかって。師匠は、なにげなしに「そういえば君も卒業やったな。大学卒業したらどこに就職するの」と聞かれたんですね。そこで、えー、ぼくは先生になります、と言うてたらどっかの学校で教鞭とってたと。ところが師匠が。君卒業したら何になるのと言われたときに、「30 分で御殿」が頭の中でウワーッと出てきてね。思わず「弟子にしてください」と。それがきっかけなんですね。我々の世界ってなかなか弟子にさせてもらえないんです。どうやって弟子入りするか言うたらね、自分が弟子になりたい師匠の寄席を、寄席の本で調べて、楽屋から出てくるのを待って、師匠が出てきたらダーッと走って行って、「師匠！弟子にしてください！」とするんですね。だから簡単に弟子にとってくれません。なんでかいうたら、われわれの世界はとても厳しい世界なんです。3 年間徒

弟制度で師匠のお宅で掃除や洗濯や御飯炊きやいろんな用事を済ます。3年間、丁稚奉公をしなければならない。これが厳しんです。ですから、弟子にして下さいいうて「ああ、とったる、とったる」といっても辞めてしますんです。だから弟子にしてください言うて、スッとはいかんのです。師匠も最初は断るんです。でもほんまにやる気のある、根性のあるやつは一回や二回くらい断られてもめげません。次にまた来ます。そんで目指す師匠が出てきたらダーッと走って行ってまた「弟子にして下さい！」と。そしてまた断られる。次の日もまた待ってて、「弟子にして下さい！」と、1年くらい通うんですね。一年くらい通うと、師匠のほうも「あいつ一年も通ってきよったなぁ～。こいつやったらやる気ある、ようしとったろ」と言ってとってくれる。大概、弟子にしてもらえるまで一年通ってます。

ところが私の場合は違う。「師匠が君、卒業したら何になるねん」、「はい。弟子にしてください」。一回言うただけなんです。でも、師匠断れますか。断られへんと思う、そりゃそうやがな。（誰のおかげでアンタの息子は高校に通ったんですかいう話や。私のおかげやねん）・・・言うてませんよ。そんな失礼な話は。言うてませんけども、僕の心の中にそういう気持ちがあり、師匠の心の中にも弱みというものがあります。私が「弟子にして下さい」言うたら、師匠は一瞬悩んで「え、ええ～、えええ～っ・・・ほな、まあ、なるかあ」言うて。その日から内弟子生活です。下宿をしておりました堺というところから師匠の家の2階に部屋がいくつかございまして、弟子部屋でございます。そこの一部屋をいただきまして。そこで寝起きをする。180度環境が変わりました。大学では麻雀をしてたりして朝6時くらいに寝ていたんです。それが朝6時に起きなければならない。朝6時に起きて、掃き掃除をして、拭き掃除をして、それが終わったら風呂掃除と、朝は忙しいんです。トイレ掃除が終わったら忙しい。手も洗わんと朝食の用意もせなあかん。笑うてはりますけど、そんなん、朝食の用意してたら手もきれいになりますよ。大体うちの師匠は白菜のつけものが好きで、師匠のお宅に糠床がありまして、そこから白菜を取ってきて、付いてる糠を洗ってしぼるのが私の仕事なんです。ジャーッと洗って手の汚いのもジャッーと。その白菜を師匠は美味しい美味しいと食べてました。私はいっさい手を付けてませんでしたけど。食べ終わったら片づけて茶碗を洗ったりするんですがよく割っていたんです。仕方がないんです。ぼくこの世界入るまで茶碗なんか洗ったことなかったんです。ぼくは小さい時から周りの人間から坊ちゃま、坊ちゃまと言われてまして・・・何がおかしいんですか。私はオギャーと生まれた瞬間から私の周りにはばあやと、ねえやがおりまして。私の世話をそっくりやってくれてました。そのばあやというのは私の母親で、ねえやというのは私のお姉さんのことです。

茶碗パリーンと割る。我々の世界は厳しいですよ。徒弟制度です。修行中に茶碗割るような粗相をしたら師匠のほうからバツーンと手が飛んできますよ。ところが私の師匠は優しかったですね。私が茶碗をパリーンと割っても怒りませんでした。「文喬ちょっとおいで」。頭なでながら一言、「いつ辞めてもかまへんねんぞ」。

三年間師匠のお宅で勉強させていただいて、一つ、師匠に教えてもらったことがあるんです。「人をよく観察しなさい」と教えられた。「今日から君は落語家になったんやから、笑いの財産をどれだけ持っているか持っていないかでこの世界は勝負が決まる。いろんな人を観察して、ありとあらゆるいろんな笑いの引き出しを持ってなさい、そういう人が勝ち進んでいけるんねんで。同時に人がいいことしてたら、真似しなさい、盗みなさい、吸収しなさい。逆に人道的に劣るようなことをしてたら人のふり見てわがふり直せ、自分はあんな人間にならんとこ、と、人間性を高めていきなさい、それが大切なことやねんで」と教えられました。観察が大切やな。

ちょっと前でございます。2か月ほど前でしたかね。ごめんなさいね、尾籠な話で。お尻のことです。肛門の入り口のところでおできみたいのが、ぷつっとできたんですよ。嫁に言うたら、近所の外科に行っといでということで、近所の外科に行ったんです。その外科というのが近所でも評判が悪い。腕が悪いというんじゃないんです。偉そうな態度をしてるんです。横柄なんです。先生がね、態度が悪い、根性悪い、歯並び悪い。歯並び悪いんは関係ないけど。まあ、近所のことやし、お尻のことやし、知り合いの人が来たらかっこ悪いから朝一番で行ったろ思って朝9時開院なのを8時50分くらいに行ったんです。そしたら待合室にまだ誰もいなかった。それで私が行って9時ちょうどになったら「どうぞー」言うて診察室に行った。いきなりですよ。その先生。初対面ですよ。ぼくに向かって、「おい、お前！今日はどないしたんや」。カチーンときました。ぼくも言うてやろうと思って（どないしたもこないしたもこないしたんや！）と、心の中で叫びました。こんなん、よう言わん。「いや、あの、肛門の入り口のところ

におできみたいなのができたんです」。先生は、「なに？ズボン脱げ、ズボン脱げ。ズボン脱いだら、パンツも脱げ！パンツ脱いだらこっち向くな。私は泌尿器科やないんやから。素人判断はこれやから困る。そりゃお前、おできゆうたら、これはれっきとしたイボ痔やイボ痔。それからもう一つ言うといてやるけどな、それはお前、肛門の入り口や言うたけどそこはお前、出口やさかいな。」（・・・んなもんどっちでもええがな。）

・・・えー、今日はそんな話しに来たんじゃない。ぼく、よくね、環境問題も関係があるのでちょっとついでというたら失礼ですけども、ぼく講演に行って必ず言うんですよ。味のある人生を送ってくださいねというんです。味というのは訓読みです。音読みで「み」。酸味をもって下さいと言うんですね。

一つは趣味を持ってくださいね。趣味。二つ目は興味。何でもいいですから興味を持ってみてください。三つ目は、人間味ですね。趣味・興味・人間味。この三つを持ってくださいと。あまりうまくない字なんでご容赦頂きたいんですが、本人は決して下手やと思ってないんですね。なかなか味のあるええ字やなと。年を取ればとるほど、外へ出て、会話をして下さい。年をとって家の中でボーっとしてると、ボケてきますからね。今日、皆さん、ここにお越しになってるということはそれだけフットワークがいいと思う。「こんな会がある、よしちょっと行ってみるか」そういう気持ちが大切ですね。なんでや言うたら、みなさん、何らかの形で一線で頑張ってる方たちだと思うんですよ。いろんな意味において仕事であるとか、町内会の役員とか。どんな形であれ一線で頑張っている人がリタイアする日が必ず人間来るんですよ。年齢的なことで。それがなんにもせんようになるとこのギャップが大きいとボケるんです。ぼくの友達が神戸大学の脳神経外科の外科部長やってるんです。彼が言うてました。「頑張ってた人間が急にリタイアして何もせんと、このギャップが大きいと必ずボケるよ。だから趣味を持ってなさい。クールダウンできるから。頑張ってる人ほど趣味を持ってなさい」と。いや、現役の時からボケてる人はかまへんで。現役の時からボケてる人は、リタイアしてもそのままやからね。もう段差がないから、ボケようがない。

興味。例えば今日は環境問題じゃないですか。環境ってなんだろう、自分の中でいっぺん、反芻してみてほしいんです。例えば、環境の周囲。たとえば今日は3R、ごみの減量。水のこと、地球温暖化、シックハウス症候群とかいろいろ言われてますけど化学物質の問題、不法投棄とか。そういうことを自分で、環境問題ってなんだろう、いつ

からこんなこと言われるようになったんだろう。そういうことを自分でいっぺん考えて、環境って何かなということを考えて欲しいんです。自分自身で考えてみてください。興味を持ってください。いろんなことに自分自身で。たとえば人権問題って？DV って？男女共同参画って？自分自身でいっぺん考えてみる。それでわからないことがあったら、本を見るなり、そういう環境問題に携わっている方にこれどうなの？と聞いてみてもらったらいいんですよ。この人間観察は何で大切かというと、最終的に人間と人間が生きてる社会でありますから。お互いに思いやりですとかね。言いたいこと、好きなこと言うてたら、そりゃ上手いことといきませんよ。環境もそうなんです。最終的に間性なんです。どういうことがいうたらね。例えばごみの分別も「今日くらい、びんも一般ごみに入れようか。」一番怖いのは「今日くらいええやろ、私くらいかまへんやろ、一時的にね。人間的に、個人的に自分くらいはええやろ」、これが怖いんですよ。空き缶を入れたからというて生活は変わらないんです。びんを一個自分が入れたからって変わらないんです。環境問題の怖いところはそこなんです。ちゃんと分別せんと、びんを一個ごみ箱にいれる。それが戸を開けたらびんが山積みになってたら怖いでしょ。そうなってたらか怖いけど、「今日くらい、私くらい」、そういう気持ちをなくてほしいと思うんです。

今日は、ごみ減量の話ですから、3R の話を。「リデュース・リユース・リサイクル」。リサイクルは一番よく聞くと思うんですけど。リデュースは発生抑制です。リユースは再使用。もっぺん使う。リサイクルは再生利用ね。リサイクルが一番よくわかりやすいから「ああ、ああ、ごみ減量言うたら、リサイクルやろ」と言うんですけど、本来はリデュース、発生抑制、リユースの再使用。これはリターナブルびん、あるいは一升びん、こういうのを再使用する。ところがみなさん、今ビールは 75 から 85%はアルミ缶になってるんです。なんでか言うたら、機能的やし、利便性がい

いから。ビール瓶は重たいし。ましてや一番問題になってるんは、昔、ビール瓶は持っていったら5円くれたんです。今もくれてるかわかりませんけど、ぼくら昭和30年時代はビール瓶5円、一升瓶10円やから、持っていったら小遣いになるから父親がビール飲んだら、男3人兄弟、一生懸命びんの取り合いです。ちゃんと返してた時代があったの。皆さんも経験あるでしょ。ところが今は、量販店で買うたりして、近所に酒屋に持っていかへんでしょ。ぼくは瓶ビールが好きやから瓶ビール買っても量販店で買うから、近所の酒屋さんに持って行かれへんの。他のところで買ったビールを空瓶だけ持って行っても。これが難しいんですよ。本来、このリデュースやリユースを優先して、リターナブルびんもええんですけど、利便性とか機能性、そういうことでどんどんリユースのほうが離れていく。うまく行政と企業と事業者と循環できたらええんですけど、まだまだ行政のほうもそこまで手が届きませんねん。そういうことが難しいなと思うんですけど。

発生抑制いうたら、マイバッグ。レジ袋をもらわない、発生を抑制させる。ほんでなんべんも使える。ぼくマイバッグを持ってきてるんですよ。これはぼくの手ぬぐい、落語で使うんですよ。日本手ぬぐいは、端がほつれて使えなくなるでしょ。これ、BUNKYO（ぶんきょう）って書いてあるんですけど、色違いで。（これで作った）マイバッグと大きいのと中間のとちっさいの必ず3つ持っていくんです。なんでかいうと、こういう講演の際には、主催者の方がお土産くれるんです。お土産手で持って行って破れたり落としりしたら、せっかくいただいたのに悪いから大きいお土産の時はこれ（一番大きい袋）なんです。ちっちゃいけど中にすごく高価なものをくれるときはこれ（中くらの袋）なんです。これは（一番小さい袋）はなにかというと、ご祝儀くれるときの袋なんです。ちょうどご祝儀袋と一緒の大きさや。別にくれとは言ってませんよ。主催者のみなさま方。言うてないけど、言うてんやけどね。この部分はぼくの子どもが使っていたベルトです。この袋は僕が着てたポロシャツ。破れてしもたんですよ。ぼくがこれが気に入ってましてね。使えなくなったから。（こうして使ってます）。これはボタンの部分が取れますよ。で、余ったやつで、これはぼく、鼻がよく出るんで、ティッシュペーパー入れ。これをいつも持ち歩いてるんです。なんでもいいんですよ。こういうので。こういうものを持ち歩いていると、やっぱり愛着がわいてくるんですよね。自分のもんであるという証があって。今日はぎょうさんバッグ持ってきたわ。北海道やから・・・。北海道はね、ウニもあるやろし、ホッケも。みなさん、ぜいたくですよ。大阪のホッケいうたらホッケやないですよ。北海道のホッケはいつも土産に買って帰るんです。めちゃめちゃ喜びますよ。身が厚い。大阪のホッケゆうたら、こんなんですよ。2ミリほどやで。北海道の人が身を食べたあとをぼくら買うてるのとちゃう？みなさんぜいたくやわ。魚がうまい。ぼくはバフンウニ大好き！・・・なんの話や。

で、札幌のほうはこの3R+リフューズという4Rを推進しているということやね。

水の話もちょっとさせてください。地球の水の97.5%は海水です。2.5%は淡水。その1.7%は氷河。0.8%がいわゆる淡水として使える水なんですけど、ほとんどが地下水。全体の0.01%がぼくらが使っている水なんです。全体の0.01%しか使えない。日本は水がふんだんに出てくるので、アフリカやケニアの人が日本へ来たとき、蛇口をケニアの人が見て、蛇口を10買うて帰った。ひねったら水が出ると思った。ほんまの話ですよ、これ。日本はいつでも使えるから気にしないんですけど、やっぱり水も大切にしましょうということです。水を大切にするのに、具体的に言うと、例えば廃油。200cc使ったとしましょう。これを流しに流してしまったら、大体300ℓのバスタブで200杯いるんです。魚が住める水にするのに6万リットルいるんです。あるいは牛乳、これを炊事場から流すと11杯いるんです。味噌汁いっぱいの場合は、バスタブで5杯分いるんです。米のとぎ汁、まあ、ほってしまうわな。これはきれいにしようと思ったら4杯いるんです。ですから牛乳なんかは、賞味期限書いたるけど1日くらい気にせんと飲んだらよろしいねん。どうってことないよ。昔なんて賞味期限がなかったんですから。冷蔵庫のなかった時代だって、牛乳飲んでたよ。もし飲んで腹壊したって200ccの牛乳流したら、11杯いるんですよ。3300ℓ水がいりますねん。飲んでお腹がピーピーになったって、トイレ行ったら、1回8リットルで済むねん。飲みなはれ。廃油、今日くらいええかと流しに流しなさんな。飲んだらええねん。飲んで死んだら、油がまわってるからよく焼けると思うよ。エコやエコ。これは冗談ですけどね。

ぼく、何が言いたいかというと、「今日くらいもうええか」いうのが3Rの問題と連結してるんですよ。そういう人がごみの分別もしないんですよ。

同じことなんですよ。こういう、廃油や牛乳、もうええかと流すんと、ごみの分別せんとなんでもかんでも一緒にしてしまうんと。そういう気持ち。人間性と思うんですよ。今日くらい、自分くらいと思っている人が、油を流したり分別せんと適当にごみをほったりとか、自分自身で自分を見つめなおしてもらうということ。

今日はここに集まってる人はそんなことないと思う。なぜなら環境問題に興味ある人が集まってるから。今日ここへきてない人や。ちょっと自分自身で律するということや。分別をする。皆さん方一人一人がちょっと我に返ってくれることが大切なんです。

ぼくはよく環境問題ね、親子のワークショップでやってるときにね、環境について標語を作って遊んでいるんです。ただ単に作ってたらおもろないから、1から10まで数字に織り込んで環境問題の標語を作ってみませんかと。そうしたら環境についていろいろ調べるから。知識として入ってきますわな。そうやって遊びでやると楽しく興味深くやれるから。そういうのを今日、ちょっといっぺん試しにやってみましょうか。すいませんが司会の東さん、お手伝いお願いします。東さん、1とか2とか言ってください。

「1・いち」
今すぐできる　分別作業でごみ半減
「2・に」
2枚（自慢）のマイバッグ　いつも持参で　地球に優しい
「3・さん」
再利用しよう、空き缶、空き瓶、ペットボトル、新聞、雑誌、ダンボール
「4・し」
資源です。あなたの捨てた　新聞紙
「5・ご」
ごみになるか、資源になるかは　あなた次第
「6・むっつ」
無駄をなくして　ごみ減量
「7・なな」
なくしちゃいけない　リターナブルびん
「8・やっつ」
野菜くず　捨てずに肥料で再利用
「9・く」
繰り返し、使おう　修理して
「10・じゅう」
循環型社会の確立を目指そう　札幌から

ありがとうございました。

そうやって1～10まで考える方が興味深くできるんではないかと考えてね。

最後にやっぱり三位一体というんですかね。

行政と事業者と個人ですね。三つが、たとえば行政は補助を出してやるとか、環境にいいことにはお金を出してやる。で、負のマイナスの部分、不法投棄しているところは厳しく取り締まる。兵庫県で山に硫酸チップを捨てる人がいるんですよ。雨が降ったら猛毒になるんです。なんで硫酸チップを捨てるかいうたら、闇で重油を精製して軽油を作る、これを勝手にやってお金儲けをする悪い輩がいるんですよ。最終的にできるのが硫酸チップで、これは出せないものなんですよ。だから山に埋めたりする。これは個人で摘発できないから行政がやる。企業は環境にいいものをどんどん開発してほしい。企業は産業廃棄物を法律にのっとって自分自身で律する。個人は自分でごみの分別をきっちりと。今日くらいは、私くらいはという気持ちをやめて、今日も私はちゃんとしよう、明日もちゃんとしようと。こういう三位一体が必要なんですよね。

大阪のあるスーパーマーケットが、ペットボトルを1個持ってくると5ポイント、アルミ缶をもっていくと10ポイント差し上げる。そして1000ポイントためると安いですけど100円券くれるとかね。行政と連携してやってるんですよね。そういうことをしていくという前向きな感じね。個人でなかなかできませんので、そういうことを企業と行政とやって、一般の人が協力するということが大切やないなと思いますね。

（ボードに絵を描き）ボードに描いたこれ、砂時計の絵を描いたつもりなんですけど、下手でごめんなさいね。砂がたまってひっくり返した瞬間の絵です。ひっくりかえした瞬間ですから砂が上にたまってる。その瞬間から砂が下にたまっていきます。砂が全部下に落ちたら砂時計の終わり。人生も同じ。生まれた瞬間から死というものに向かって直線的に歩んでいきます。後ろに下がることはできません。何が言いたいかというと、人生、一回こっきりです。ぼーっと過ごしても一日です。一生懸命打ち込むのも一日です。ぼーっと過ごす1日があってもいいんですけど、やっぱり何かに打ち込む日があってもいい、なにかしようという自分自身が社会に還元しようという気持ち、あるいは環境問題になにかしようと、いうそういう気持ちを持つ、そしてそれをできるだけ実行しようとする、そういうことで人生が充実してくるんですね。自分の人生は自分でしか責任を持

てませんし、満足できません。自分自身が充実した人生を自分で作るもんなんですね。一人一人がそういう気持ちで人生を歩んでいってもらいたいと思いますね。

うちの祖母が明治の人ですけど、すごく厳しくて、私らも大好きなおばあちゃんでした。昔の人はものを捨てませんでしたね。物がない時代でしたからね。やぶれたら繕う。靴下なんかもよう継ぎ当ててはいてましたね。ぼくはおばあちゃん大好きで、おばあちゃん子やったんですけど、ぼくの友達もおばあちゃん子で。ある日その友達のおばあちゃんが亡くなって、その友達が泣いてるんです。「おばあちゃん亡くなったよー」と。（ぼくは）「おばあちゃんなくなったんなら探さんかい」と。「そんなんちゃうねん」と、よくよく聞いたらおばあちゃんが天国へ行った、二度と会えないと。ぼくもどきどきして。ぼくのおばあちゃんが亡くなったら大変やと。おばあちゃんにそれを言おうと思って。だけど5歳や6歳の子どもはうまいこと言葉が出てこんのです。それでおばあちゃんに聞きました。「おばあちゃん、いつ死ぬの？」と。それを聞いたおばあちゃんが一言、「それはお前一人の考えか？」

夕方になって共働きの母親が帰ってまいりまして。ぼくの祖母いうのが母親の実の母親やったらちょっと違ってたかもわからんけど、やっぱり嫁・姑なんで母親は母親なりにいろいろ気を遣ってたんでしょう。事情を聞いた母親が、えらい怒りまして。ぼく、バツーンと引っぱたかれまして、「あんた、なんてこというの！こっち来なさい！」と。ズルズルズルズル引きずられて廊下のすみに連れて行かれて、ボコボコにされるんかなと思ったら、母親が一言。「それで、いつや言うてた？」。

どうもありがとうございました。

古典落語

住吉龍

桂文喬

活動パネル展示コーナー

スリムネット活動報告・風呂敷の活用展示

活動パネル展示

スリムネット活動報告 in リサイクルプラザ

3月21日～25日

１０周年記念フォーラム
アンケート集計

日　時:2016年3月5日(土) 14:00～16:00　　会　場:エルプラザホール
参加人数:231人、 アンケート回答数:211人

性別	男性	女性	未記入	年代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	未記入
	65人	121人	25人		6人	6人	10人	33人	60人	92人	4人

周知媒体	チラシ	ふりっぱー	広報さっぽろ	ホームページ	知人の紹介	その他	未記入
	77人	38人	36人	7	24人	26人	3人

	非常に参考になった	参考になった	あまり参考ならず	未記入
全体としての感想	102人	95人	8人	6人
ごみ減量紙芝居	96人	101人	10人	4人
10周年活動紹介	84人	112人	12人	3人
特別講演会	134人	65人	3人	9人

【ご意見･ご感想〈105件〉】

主な感想・意見

・桂文喬さんの笑いを含めたエコ話がとても分かりやすく勉強になりました。
・桂文喬さん落語笑いころげてこれもエコストレス解消楽しかったです。フォーラム大成功ですね。
・せっかくのお話がマイクが悪くて残念でした。
・ゴミ減量の大切さをあらためて感じた。
・回収資源の話もテーマにしてほしいです。
・雪のない時にやってほしい。(年なので)
・さらにゴミを考える日になった。
・またしてほしい。
・紙芝居で表彰された子ども達の考えのように取り組んでいくことが大切ですね。
・ありがとうございました。
・とても参考になりました。
・楽しかったです。
・ゴミは一人一人の問題なので町内会活動などにながし各家庭にながし一人一人が考えられる環境作りが大切なのでしょう。
・桂文喬さんが言われたように1～１０で標語を募集してはいかがですか？
・難しく深刻な啓蒙よりも笑いを交えたこのようなイベントがもっとも効果があるとおもいます。
・初めての参加です。少しでも身近にゴミを減らすことを考えていこうと思います。
・楽しいひと時でした。ゴミの分別をせずに出す人の多い事ステーションの近くで困ります。
・文喬師匠のユーモアに満ちた語りで楽しく環境問題を学ばせて頂きありがとうございました。
・趣味・興味・人間味・心にとめて心がけて行こうと思いました。
・桂文喬師匠の落語非常にＯＫでした！将来の環境相候補です！
・文字で読むのと違ってわかりやすく理解できた。
・「昔のリサイクル方法と今の違い」
・どの取り組みも大事で家庭でもできる事を感じた。
・北の人は大阪弁をどれほど解かっているのか、古典だから全国的な話なのでなんば花月がなつかしい！！
・３Ｒの話もわかりやすかったです。
・小学生のゴミに関する挑戦といい文喬さんの講話風呂敷の利用法などこの会は大変心に残る催しでした。生活の一途にできることばかりでとても

良かったです。
・普段笑う事が少ないので今日来てみました。笑いながら日常の話（ゴミについて）勉強となり楽しかったです。
・桂文喬さんの落語もおもしろかったです。人生一回限り自分自身で満足した人生をおくることは共感しました。これからも色々見て聞いて楽しみながら生活できればと思っています。ありがとうございました。
・紙芝居がすばらしです。子供たちの真剣さが伝わります。
・いろいろな活動をしているのがよくわかりました。機会があれば古着のその後がどうなって行くのか見学したいと思いました。
・古着屋へ持って行くのとクリーニング店へ出すのと古着の行き先が広がって再利用されるのがいいですね。
・生ごみの堆肥化をやってみたいです・
・小さい頃からエコについて親達が教える事が大切です
・減量については又水の汚れに油を流すとフロ水２００パイ必要とのことびっくりしました。この間はちえりあで映画もったいないを見ました。私個人はゴミ減量をしているつもりですが私一人がという考えは意味がありました。
・定期的にこの種の行事開催をして頂きたい。
・特別講演会が非常に良かったです。さっぽろスリムネットの皆様に敬意を表します。
・楽しく勉強させて頂きました。又環境活動をがんばろうと思いました。
・初めての参加でしたが落語家の方が環境に対してお話しされるのも驚きでしたが知識の多くて楽しい中でお話しが聞けて良かったです。ありがとうございました。
・このようなフォーラムは今後も継続していくことが重要と考えます。担当者、関係各位の皆様本当に御苦労様です。
・落語を初めて聞きました。とても楽しく環境問題について話をして下さって笑えました。ありがとうございました。
・スリムネットの活動については以前から知っているつもりでしたが１０周年活動紹介を伺って新たにあれもこれもスリムネットの活動だったのかと知ることとなりました。大変勉強になりました。
・文喬さんのお話はおもしろくもあり、勉強にもなり、有意義な時間を過ごす事ができました。落語も大好きなので並んだかいがありました。
・子供たちの紙芝居の募集＆表彰は次世代にゴミの減量をつなぐすばらしい企画だとおもいます。
・今日のお話しのごとく毎日人生を過ごし、考えていきていきたいとそして心より私も思い同感しています。
・今日からは伝わった言葉を行動にうつして生きていきたいと思います。
・ゴミに興味があり話を聞いてる間にさっぽろスリムネットが何をしているか良く知ることができた。
・プロのお話しを直に聴けて良かったです。スリムフォーラムにあった話の内容であり楽しく参考になりました。
・本物の古典ものを聴けるなんて思ってなかったです。最高に楽しめた。ありがとう。
・こういう参加の仕方もいいですね、たいていはハガキで早くから申込みになるけど、この方法だとその日都合が良ければ参加出来るので良かったです。
・土畠もえみさんの紙芝居良かったです。
・市内各区もしくは５か所程度での開催がよい。資源ゴミは宝の山もっと活用すべき。市は市民の負担を軽くするためもっとがんばってほしい。
・燃えるごみも燃えないゴミももっと活用して無料化を。市民はより協力を！！
・生ゴミ無料化にむけて（話あった様な）なんとか実現してほしい。
・ゴミ減量さっそく実行しようと思った。
・自分くらいいいかー！？これは本当に考えさせられた。
・衣服リサイクル（アピール）まだ広まってないと思う。
・実技、フロシキ、ダンボールのゴミ。
・桂文喬氏の話が分かりやすく大変勉強になりました。次回も是非参加したい。
・このような機会を親子でもあっても良いのでは！
・古着の無料回収のチラシが参考になった。
・桂文喬さんの「講演＆落語」が大変楽しく又参考になる事も多々あり良かったです！
・落語家の方が楽しく話して下さり本当に結構でした。このような催、有難いです、すごいアイディアですね、環境問題を専門に話す方もいらっしゃるのですね。
・これからの生活に是非取り入れスリムな生き方をしていきたいと思います。
・紙芝居の発表絵も上手で丁寧いな作品に感動しました。
・講演も内容がわかりやすく楽しかった。
・札幌をスリムシティにするには区分の行動も大切だと思います。
・私は東区（鉄北地区）の町内会と住居にて資源回収を担当致しております関係上本日のフォーラムには感心があり参加しました。参考になることも多く今後の活動に役立てたく思います。
・日本文化をもっと知り広げたい。
・生ごみの件良かったです。コンポスト買います。